

若年と高齢の女子を判別する身体計測項目

○川上 梅* 渡邊敬子** 猪又美栄子*³ 高部啓子*⁴ 松山容子** 古松弥生*⁵
(*東京家政学院大 **大妻女大 *³昭和女大 *⁴実践女大 *⁵十文字学園女短大)

【目的】現在、既製衣料サイズでは身長成長が停止した後を「成人」として一括しているが、「成人」でも身体形態が加齢に伴い変化することは種々指摘されている通りである。特に今日では高齢人口比の増大とともに「成人女子」の対象範囲は以前よりも広がっており、既製衣料は、実際には若年者向けと高齢者向けとに区別され製造されているのが現状である。本研究では、「成人女子」の対象となる年代の女子から比較的若年者集団と高齢者集団を取り上げ、両集団の体型を判別するための身体計測項目を見出すことを目的とする。身体計測値から判別分析により若年者群と高齢者群を高精度で判別できることを確認し、シルエット写真からも検討を加えた。

【方法】資料には、人間生活工学センター計測の身体計測値及び三次元データから、若年者群としては20・30代の女子各30名ずつ計60名、高齢者群としては70・80代の女子各30名ずつ計60名の合計120名を抽出し使用した。解析項目は、上半身を表す14項目、下半身を表す9項目を選び、まず上半身・下半身別に高齢者と若年者の両群を判別する判別分析を行った。それぞれで有意な説明変数として選択された項目を用いて、さらに全身を判別する判別分析を行った。また上半身、下半身、全身の判別関数から算出された判別得点とシルエットとの関係について考察を加えた。

【結果】判別分析の結果、数個の身体計測値からの中率95%以上の高精度で両群に判別可能であることが分かった。全身の身体計測値から導かれる判別得点と相関が高い項目は乳頭ウエストライン距離、(股下高-膝高)であり、次にウエスト囲、腹囲、大腿囲、背肩幅の順に低くなった。但し判別得点はシルエット形状を表す指標としては不十分であった。